

グリーン成長に向けて

平成24年7月5日

環境大臣 細野豪志

グリーン成長の先導的中核プロジェクト

～「浮体式」洋上風力発電の推進～

- ◆ 洋上には陸上に比べて大きな導入ポテンシャル
- ◆ 水深が浅い海域が少ない我が国では、深い海域に適用可能な「浮体式」が期待
- ◆ 世界的にも風力発電技術は「浮体式」のステージへの移行が想定
- ◆ 浮体式洋上風力発電における日本技術の海外展開が期待される

我が国初となる、商用スケール(2MW)の「浮体式」洋上風力発電実証機にチャレンジ
特に、①台風への耐性、②漁業関係者との調整、③環境アセスメント が重要

洋上風力発電実証事業

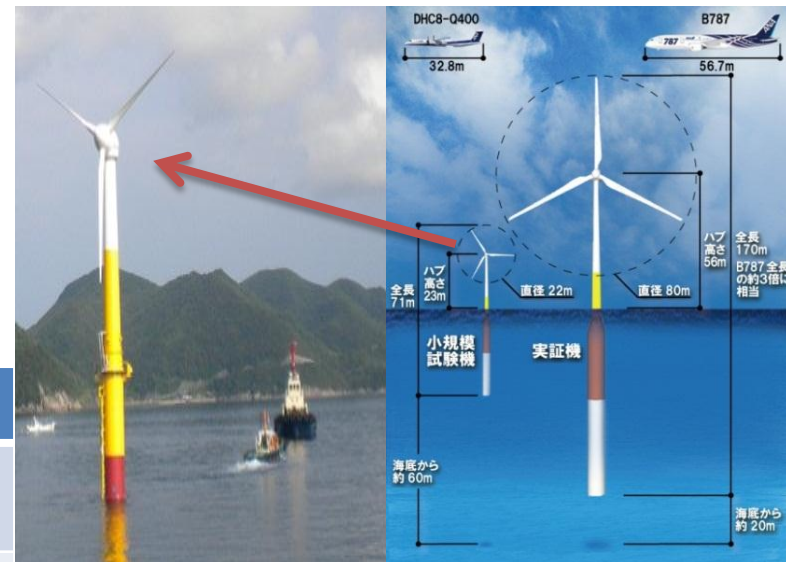
実施海域



周辺漁協・住民の賛同・同意を得て長崎県五島市
杵島沖を選定(陸から約1km、水深約100m)

H24-27年度の事業計画

	H24	H25	H26	H27
小規模試験機(100kW)の実海域設置・運転		H24年6月に設置済み 8月に運転開始予定		
実証機(2MW)の実海域設置・運転		成果を反映(設置、制御等)		
事業性等の評価				



H24年6月に実証海域に設置した小規模試験機(100kW)

小規模試験機(100kW)と実証機(2MW)のサイズの比較

グリーン成長の先導的中核プロジェクト

～自然調和型地熱開発の推進～

世界第3位の資源量を誇る我が国の地熱エネルギーを適切に活用するため、**自然環境の保全と地熱開発の調和が十分に図られる優良事例の形成支援**
(地熱開発に関連する幅広い技術がグリーン成長の重要要素)

指摘されている地熱開発の主な課題

- ① 関連法令の諸規制(自然公園法に基づく開発行為の規制、温泉法に基づく掘削許可等)
- ② 開発コストが大きい(開発のリードタイムが長く人件費等の負担が大きい、調査・開発段階の掘削費用が高額等)
- ③ 地熱資源のほとんどが温泉地に近接しており、地元温泉事業者等との調整が必要

課題を踏まえた環境省の取組

- ① 政府の規制・制度改革アクションプランへの対応の一環として、本年3月に自然公園法や温泉法に係る通知を发出
- ② 環境省による事業支援(自然共生型地熱開発のための掘削補助事業等)
- ③ 環境省・経済産業省の連携により地元説明会を開催

地熱開発戦略の形成のための検討会議を環境副大臣の下に設置

自然調和型の地熱開発が重要
(地域の理解・協力の醸成がキー)



自然景観



温泉資源



地熱発電施設

自然調和型の地熱開発の例

高温温泉
(70~120℃)

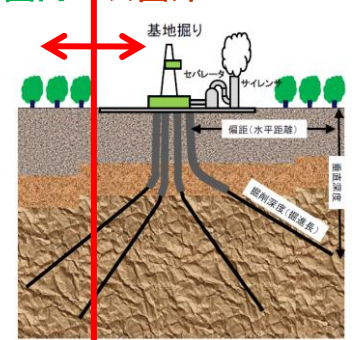
温度差エネルギー
でバイナリー発電

ホテル・旅館等
での利用

浴用利用
(50℃以下)



(国立公園内への傾斜掘削)
公園内 公園外



社会変革を促す取組(家庭・地域)

<家庭エコ診断>

- 消費者側から社会変革を起こすインフラとして、各家庭を診断し、効果の大きい省エネ製品の導入をサポートする「家庭エコ診断」サービスを実現



家庭エコ診断を実施中

<次世代HEMS・スマートメーター>

- 家庭で積極的に需給調整するために、他の家庭との比較情報やインセンティブを創出するため、HEMS (Home Energy Management System) のデータインフラを構築

<低炭素地域づくり>

【LED等】

- 日本の環境技術の代表であるLEDの大幅普及、次世代技術としての有機ELの開発を加速化
- 経済産業省や業界団体と連携したLED等の高効率照明の普及キャンペーン「あかり未来計画」の実施

【グリーンニューディール基金等】

- 再生可能エネルギー・未利用エネルギーを活用した地域主導での自立・分散型エネルギーシステムの導入を支援し、**災害に強く低炭素な地域づくりを進めるとともに、関連産業・市場の創出により地域からのグリーン成長を実現。**



日本初の駅での有機ELの使用
東急自由が丘駅

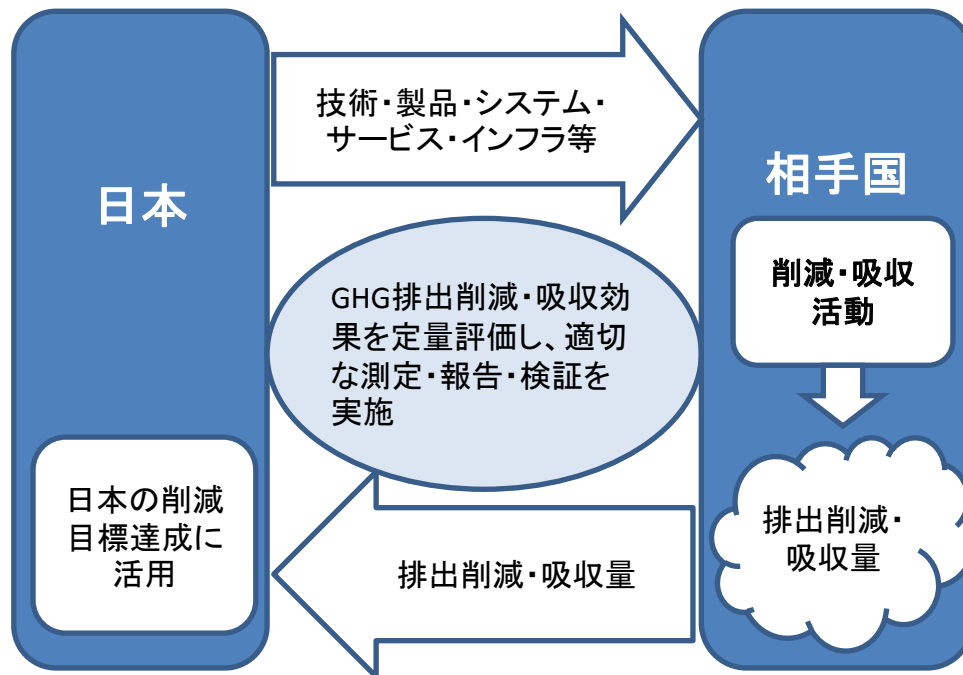


小売店、行政で展開する「あかり未来計画」ポスター

世界に拡大するグリーン産業分野での日本技術の展開

～二国間オフセット・クレジット制度～

- 温室効果ガスの排出削減活動を幅広く対象にし、途上国の状況に柔軟かつ迅速に対応した気候変動分野での技術移転や対策実施の仕組みを構築。
- **日本の技術で排出削減と経済成長を両立させる低炭素成長を実現。**



製糖工場におけるボイラ廃熱利用を含むバイオガス利用発電(インド)

1. 世界で共有されている**長期目標**を視野に入れる

- 気温上昇を**2°C以内**にとどめる
- 2050年に**世界半減、先進国80%削減**を実現する
- 前提条件なしの**2020年、2030年**の目標を提示する

2. 世界に先駆け、未来を先取る低炭素社会の実現を目指すという**明確な方向性**を示す

- ①他の追随を許さない世界最高水準の**省エネ**
 - 低炭素製造プロセスと低炭素製品で世界標準を獲得
 - すまい、くらし方などあらゆる面で省エネナンバーワン
- ②後塵を拝した**再エネ**を世界最高水準に引上げ
- ③省エネ・再エネ技術で**地球規模**の削減に貢献

3. 世界に先駆け、未来を先取る低炭素社会の実現に必要な**施策を明示**する

- 対策の裏付けとなる施策を明示する。



世界をリードするグリーン成長国家の実現へ